

**近畿地方交通審議会
近畿船員部会議事録**

第191回

令和6年8月28日

日 時 令和6年8月28日（水） 16時00分から

場 所 近畿運輸局 会議室（船員部会室）

出席者 公益委員 横見委員、定岡委員、三輪委員、
安達委員（欠）

労働者委員 浦委員、佐藤委員、坂上委員

使用者委員 磯合委員、土屋委員、開委員

運 輸 局 岩佐海事振興部長、三浦海事振興部次長、
土本船員労政課長、矢野船員労政課専門官、
衣川船員労働環境・海技資格課長

議題1．管内の雇用等の状況について

議題2．その他

議 事 概 要

横見部会長：

それでは、ただ今から第191回近畿船員部会を開催いたします。

あらかじめお配りしております「第190回船員部会」の議事録につきまして、ご承認をお願いしたいと思います。ご異議ございませんか。

(異議なし)

横見部会長：

無いようですので、ご承認をいただいたものとして取り扱わせていただきます。

それでは、議題1の「管内の雇用等の状況」について、運輸局からご説明をお願いいたします。

土本船員労政課長：

それでは「令和6年7月分管内雇用状況」につきまして、ご説明させていただきます。

1. 職業紹介状況

①求人関係

新規求人数は、64人（前月比+5人、8.5%の増、前年同月比：-54人、45.8%の減）となっています。

月間有効求人数は、171人（前月から増減なし、前年同月比：-74人、30.2%の減）となっています。

②求職関係

新規求職者数は、9人（前月比-2人、18.2%の減、前年同月比：-4人、30.8%の減）となっています。

月間有効求職者数は、27人（前月比-4人、12.9%の減、前年同月比-4人、12.9%の減）となっています。

③成立状況

当月の成立数は、1人（前月比：－5人、83.3%の減、前年同月比：－9人、90.0%の減）となっています。

④職員・部員別成立者内訳

職種別の内訳は、甲板部職員1人、機関部職員0人、甲板部部員0人、機関部部員0人、事務部部員0人となっています。

年齢別については、10歳代0人、20歳代0人、30歳代0人、40歳代0人、50歳代0人、60歳代1人、70歳代0人となっています。

2. 新規求人・求職者の取扱実績

①職種別内訳

新規求人の職種別内訳は、職員51人（甲板部33人、機関部18人、無線部0人、事務部0人）、部員13人（甲板部7人、機関部0人、無線部0人、事務部6人）となっています。

新規求職の職種別内訳は、職員3人（甲板部2人、機関部1人、無線部0人、事務部0人）、部員6人（甲板部4人、機関部1人、無線部0人、事務部1人）となっています。

②新規求職者の退職理由

内訳は、船舶所有者の都合が0人、定年退職1人、雇用期間満了2人、本人の申し出5人、自己の健康0人、倒産0人、就労中0人、不明1人となっています。

③新規求職者の年齢別

30歳未満1人、30歳代1人、40歳代0人、50歳代2人、60歳以上5人となっています。50歳以上は7人で占める割合は77.8%、30歳未満の占める割合は11.1%です。

3. 失業等給付金支給状況

当月末の受給資格者数は8人で、基本手当の支払実人数は1人、給付件数は2件となっています。給付金額は246,880円です。前月は0人、給付は0円でした。

それから、高年齢求職者給付金が0件0円、再就職手当が1件528,360円、就業促進定着手当が0件0円よって、当月支給額計は、246,880円となります。

4. 月間有効求人倍率の推移

7月の近畿船員は6.33倍で、前月比+0.81ポイント、前年同月比、-1.57ポイントとなっています。

5. 近畿運輸局、月間有効求人・求職状況

①月間有効求人は171人で、このうち、新規求人者数は64人となっています。

当局の紹介による求人側の成立は1人、他局成立は0名でございました。求人の取り消しは62人で、理由の内訳は有効期限切れ60人、自己応募・縁故により採用0人、会社都合により取り下げ2人、その他は0人となっています。

②月間有効求職者は37人で、前月との差は-10人でした。

当局の紹介による求職側の成立は0人、他局成立は0人でした。求職の取り消しは10人で、理由の内訳は期限切れ7人、自己応募・縁故により採用0人、自己都合により取り下げ3人、その他0人となっています。

6. 全国運輸局別の有効求人、有効求職、成立数、有効求人倍率

①6月の全国の月間有効求人数は、3,101人で、前月比63人増の102.1%、前年同月比は102.5%となり、77人増加しています。

- ② 6月の全国の月間有効求職数は、682人で、前月比1人増の100.1%、前年同月比83.9%となり、131人減少しています。
- ③ 6月の全国の成立数は、47人で、前月比11人増の130.6%、前年同月比では88.7%となり、6人減少しています。
- ④ 6月の全国船員の有効求人倍率は季節調整値により4.66倍となっています。6月の全国陸上は季節調整値により1.23倍となっています。

以上が管内の雇用等の状況でございます。

横見部会長：

ご説明ありがとうございます。

資料1、2、3について何かご質問等ございますでしょうか。

三輪委員：

資料2の7ページ、船員未経験者の中で、成立情報のところに受講指示とある方とそうでない方について、どのような違いがあるのでしょうか。

土本船員労政課長：

本人の希望により、受講を指示します。講習修了まで4.5ヶ月、費用もかかりますので、受講せずに働きたいという方もいらっしゃいます。

三輪委員：

受講の情報はどのタイミングで提供するのですか。

土本船員労政課長：

求職者の方にパンフレットを渡して説明します。求職者それぞれのご事情に応じて説明しますので、積極的に受講させるということはしていません。

土屋委員：

未経験の方で船の仕事が続けられるかわからないという理由で、就職前に資格取得の学校にいかない人はいます。実際に船に乗ってみて船内環境等でやっぱり船員の仕事は無理となると資格が無駄になってしまうと考えておられるようです。

三輪委員：

ありがとうございます。

横見部会長：

他に何かございますでしょうか。

無いようですので、それでは、次に議題2の「その他」に入ります。

運輸局の方から説明をお願いします。

三浦海事振興部次長：

資料4を説明申し上げます。

まず、令和6年6月分の内航海運の輸送動向調査の概要ですが、貨物船と油送船を合計した輸送量は前年同月比99%となっております。

貨物船は鉄鋼、燃料（石炭、コークス）が増加となった一方で、原料、紙・パルプ、雑貨、自動車、セメントは減少、油送船は黒油とケミカル以外は増加となったようです。

6月の貨物船の輸送量は、前年同月比100%、前月比109%となっております。

鉄鋼は前年同月比105%であり、前月に続いて順調な輸送が継続しているようです。

原料は前年同月比96%。金属鉱等は増加が見られた一方、石灰石の減少のため全体として減少となったようです。

燃料は 前年同月比 132%。前月に続いて石炭火力発電所の定期修理があった影響で、石炭は反動増、コークスは減少しているようですが燃料全体としては大きく増加しているようです。

紙・パルプは 前年同月比 99%。紙は前年同月並みでパルプは前年同月に比べて大幅に増加が見られ、木材（バイオマス燃料）が受け入れ先の定期修理による減少で、全体としては微減となったようです。

雑貨は 前年同月比 98%で、一般雑貨が減少のようで、前月まで続いていたコンテナの内航船の横持ち輸送の減少に関して下げ止まりが見られたようです。

自動車は 前年同月比 98%で、一部メーカーのデータ試験の不備等による輸送量の減少があったようです。

セメントは 前年同月比 94%で、販売数量の全国的な減少により引き続き低調となったようです。

続きまして、油送船の輸送量ですが、前年同月比 98%で、前月比 99%となっています。

黒油は前年同月比 90%で、今月も一部で製油所の装置不具合等による転送需要の送り込みは変わらずですが、トラブルにより停船していた船が下旬から戻ってきたようです。

白油は前年同月比 101%。ジェット燃料油の輸送は好調に推移している一方で、製油所の定期修理及びトラブルにより出荷製品の少なさから出荷パターンの変更が生じている。このことから輸送距離が延びており、船員の労働時間管理の問題と相俟って船腹はタイトな状況であり、一部ケミカル船での輸送を行っている状況となっているようです。

それでは3ページ以降、貨物ごとの状況です。6月の欄と対前月の欄をご覧ください。

鉄鋼ですが、	前年同月比で	104.6%	、対前月比は	99.5%
原料は、	前年同月比で	101.2%	、前月比では	105.0%
燃料は、	前年同月比で	132.0%	、前月比では	126.0%

紙・パルプは、前年同月比で 98.5%、前月比では 115.8%
雑貨は、前年同月比で 98.4%、前月比では 106.7%
自動車は、前年同月比で 98.0%、前月比では 122.9%
セメントは、前年同月比で 93.9%、前月比では 102.7%

貨物船全体の輸送量は、1,666万5千トンで
前年同月比で 101.7%、前月比では 109.2%となっています。

黒油（こくゆ）は、前年同月比で 89.5%、前月比では 97.2%
白油（はくゆ）は、前年同月比で 100.6%、前月比では 98.8%
ケミカルは、前年同月比で 92.2%、前月比では 102.7%
一般タンカーの輸送量は、718万6千トンで
前年同月比で 96.9%、前月比では 98.7%となっています。

続きまして、
高圧液化は、前年同月比で 107.0%、前月比では 93.5%
高温液体は、前年同月比で 116.7%、前月比では 112.3%
耐腐食は、前年同月比で 102.3%、前月比では 99.5%
特タン船の輸送量は、86万8千トンで
前年同月比で 105.9%、前月比では 97.6%となっており、
全てのタンカーの合計は、805万4千トンで
前年同月比で 97.8%、前月比では 98.6%となっています。

次に資料5、令和6年6月における長距離フェリーの輸送実績でございます。

6月の欄と、右のほうの対前月、対前年同月比のところをご覧ください。
まずは「トラック」ですが、
北海道方面では、11,148台で、前月比108.4%、前年同月比
106.8%

北九州方面では、33,795台で、前月比104.4%、前年同月比106.8%

中九州方面では、11,199台で、前月比108.7%、前年同月比111.4%

南九州方面では、11,367台で、前月比85.9%、前年同月比110.1%となっています。

次のページの「旅客」では、

北海道方面では、

16,536人で、前月比123.9%、前年同月比114.8%

北九州方面では、

59,071人で、前月比70.7%、前年同月比108.7%

中九州方面では、

27,587人で、前月比76.8%、前年同月比107.1%

南九州方面では、

17,349人で、前月比61.0%、前年同月比119.3%
となっています。

最後に、次のページの「乗用車」では、

北海道方面では、

6,456台で、前月比120.8%、前年同月比114.0%

北九州方面では、

19,571台で、前月比73.6%、前年同月比100.1%

中九州方面では、

4,323台で、前月比73.7%、前年同月比119.4%

南九州方面では、

5,912台で、前月比67.8%、前年同月比110.9%
となっています。

トラック、旅客、乗用車の輸送実績は、北九州方面の輸送台数及び人数が最も多く、「対前年同月」の比は、いずれも100%を超えている状況が見受けられます。

資料5の説明は以上でございます。

続きまして、資料6 船員教育機関卒業生の求人・就職状況及びあり方検討会の検討の方向性について説明申し上げます。

はじめに、商船系の船員教育機関に関する求人・求職と入学状況ですが、商船系の船員教育機関としては、

商船系大学は、東京と神戸の2校

商船系高等専門学校は、富山、鳥羽、広島、大島、弓削の5校

海上技術短期大学校は、北から小樽、宮古、清水、波方、唐津の5校

なお、唐津は今年の4月から短大スタートのようです。

海上技術学校は、館山、口之津の2校

最後に海技大学校は、芦屋の1校になっております。

2ページ目は、令和6年5月に開催されました交通政策審議会海事分科会第171回船員部会資料から引用した船員教育機関卒業生の求人・就職状況で、直近5年間に商船系大学、商船系高専、海上技術学校、海大に分けた求人数、就職者数、進学者数をまとめたものとなっているようです。

3ページ目は、令和5年度の船員教育機関における航海・機関別の求人・就職状況をまとめたもののようです。

4ページ目は、三級海技士養成機関の求人・就職状況についての5年間の推移で、大学、高専、海技大学校ごとに延べ数を棒グラフで示しているようですが、求人数におきましては、求人票のカウントの重複を限りなく排除することを試みた推測値として折れ線グラフでも示しているようです。

なお、「内航」では、全体の約9割、「カーフェリー／旅客船」では、全体の約7割を高専が占めているようです。

大学の場合、就職希望者数の約8割が外航に、約2割が内航に就職しているようです。

5 ページ目は、四級海技士養成機関の求人・就職状況についての5年間の推移で、本科、乗船実習科、海技短大別の状況を棒グラフで示しているようです。

なお、「内航」、「カーフェリー／旅客船」とともに、求人数は増加しているが、就職者数は減少傾向となっているようです。

1 ページとばしまして、7 ページ目は、直近5年間における大学、高専、海技教育機構別の入学状況を示したもののようです。

令和6年度に唐津校が短大へ移行したことに伴いまして、全体の入学定員が、令和6年度から405名となっております。

海技短大、海技学校、いずれも合格を出しているものの、結果的に入学いただけない状況が発生しているようです。大学、高専は、ほぼ例年どおりのようです。

各学校の求人・就職状況とはいきませんが、以上が本省の船員部会で報告されていたものです。

続きまして「海技人材の確保のあり方に関する検討会」の状況についてのご報告になります。

16 ページをご覧くださいませでしょうか。

「海技人材の確保のあり方に関する検討会」は、少子高齢化の進行、幅広い業種において生じている人手不足、今後の内航・外航海運における輸送ニーズの変化等、内航・外航海運を巡る諸情勢の変化を踏まえた船員のほか、今後の船員養成を担う教官など船員としての素養が必要な海技人材の確保は喫緊の課題であることを踏まえ、今後の海技人材の確保のあり方に関し、官民一体となった幅広い検討を行うことし、第1回が4月26日に開催され、「海技人材の人材確保・活用に関する現状と課題」や「検討会において議論して頂きたい事項」が取り上げられ、第2回は5月24日に開催され、海運業界・有識者から第1回の論点についてのヒアリングが行われ、第3回が6月20日に開催され、第2回のヒアリングを踏まえた論点整理がされたようで、

「検討の方向性」として、17 ページ～25 ページが示されています。
今後の進め方としては、9 月頃に具体的な対応策の検討、年内に中間取りまとめを予定しているようです。

また、当該検討会の「検討の方向性」の論点 3 に該当する情報になりますが、（独）海技教育機構のあり方に関する検討についてです。

全国 8 校の学校と 5 隻の大型練習船を擁する基幹的な船員養成機関であり、これまで 1 万人以上の優秀な船員を送り出してきましたが、近年は、入学応募者の減少、学校施設・練習船の老朽化、教員・乗組員の不足、予算の逡減等の課題に直面しており、これらの課題に対応し、海技教育機構が基幹的な船員養成機関としての役割を引き続き果たすことができるようにすること等を目的とし、6 月 24 日に学識経験者、教育機関等、関係団体、行政による第 1 回「海技教育機構の中期的なあり方に関する検討会」が開催され、来年春頃に「方向性まとめ」をする予定のようです。

論点 4 に関連する情報としては、6 月 13 日に荷主企業、内航海運業者、行政による令和 6 年度の「安定・効率輸送協議会」が開催され、当該検討会の背景や論点などが伝えられているところです。

私からの説明・報告は以上です。

横見部会長：

ありがとうございました。

それでは、資料 4、5、6 について何かご質問等ございますでしょうか。

坂上委員：

資料 7 ページの船員教育機関入学状況で、独立行政法人海技教育機構の定員数に対して、応募者数が多いにもかかわらず、入学者数が定員を下回っているのは辞退者が出ているというお話ですが、補欠合格といった制度はないのでしょうか。少しでも入学者数が増えれば船員になる人も増えるかと思えます。

三浦海事振興部次長：

海技教育機構に確認いたします。補欠合格になるかわかりませんが、いろいろ取り組んでいると聞いたことはあります。それでも厳しいのが現状と思います。

土屋委員：

応募者が多いと言うデータですが、これは総数なので、内容的には定員以下となっている学校と倍率が2倍となっているような応募が多い学校があると思います。都会に近い学校は他に選択肢が多いからなのか応募者数が少なく、逆に船員さんの里も多い地方学校では倍率が高くなる傾向のように思います。また、応募の多い学校が不合格者に定員割れとなったところを勧めるなどのやりとりを学校同士で行っていると言うことも耳にしますが、親御さんからすると遠くの学校となると抵抗があるようです。

浦委員：

学校ごとの状況はわかりますか。

三浦海事振興部次長：

各学校のデータはもらえませんでした。

横見部会長：

船員になりたい人が入学したくてもできずにあふれているという状況にあるのでしょうか。

三浦海事振興部次長：

応募する段階では必ずしも全員が船員になりたいということはないかと思えます。別の学校も受けているということも多いので辞退者も出てくるのですが、今後はそういった方を船員になりたいと思えるような取り組みが課題となります。

佐藤委員：

応募者数はそれぞれ統計の取り方があると思いますが、入学者数を見ると定員をほぼ満たしているのに、あふれている人がいることは想定されます。定員の拡大をして船員を希望する人を増やしていくことが船員不足解消につながるのだから、海技教育機構は国土交通省管轄ですので、予算をしっかりと組んで定員の拡大へ取り組んでいただきたいです。

三浦海事振興部次長：

海技教育機構のあり方についても教員不足、施設老朽化などの課題について検討されています。また、来年度の予算については、増額へ向けて要求しているという報道もございました。

佐藤委員：

一方で、13ページの水産高校の生徒数については、年々志願者数が減少しており、定員割れしている学校も多くなっているのが実態ですので、教育委員会が中学生に対してもっとアピールして水産高校への入学者数を増やしていかなければならないと思います。定員割れしている水産高校は別として、商船高専は定員をほぼ満たしているのだからまずは定員を増やしていくことが重要かと思います。子どもたちへの船員職業の周知、広報活動ももちろん大事ですが、まずは定員を増やさないとあふれているのであれば船員になりたくてもなれずに挫折することもありえるので優先して対処をお願いします。

三浦海事振興部次長：

教員不足、施設の老朽化などいろいろな課題の中の一つであり、本省も認識はしているかと思います。

佐藤委員：

できることを一つ一つクリアしていかないと船員不足はいつまでたっても解決しないと思うし、島国である日本における船員の貢献度・重要度は他の職業に代えがたいものがあります。

土屋委員：

12ページの予算の推移を見ているとH13年に105億だったものが令和5年に65億まで減っているのですか。

三浦海事振興部次長：

練習船の燃料が足りなかったり、学校の設備が不足してきているのが現状です。カリキュラムギリギリの範囲で練習船を動かして実習しています。昔は経験を積ませるために世界一周航海などもあったのですが、今は燃料代の上昇もあり、予算も削られ、そんな余裕がないのが実情です。

土屋委員：

船の新造や大規模修繕もここ5年から10年くらいで価格が1.5倍くらいになっていると感じます。学校では現状維持、または船を減らしたりしているようですが、大変な現状の中でも学生にとって魅力ある船、設備を提供できることを期待します。

定岡委員：

8ページの船員数で外国人が多い理由を教えてください。

三浦海事振興部次長：

このページに書かれているのは外航の日本人船員と外国人船員となっています。プラザ合意以降の国際競争の中で、日本人船員ではなくコストの低いフィリピンやインドネシア船員を国際船舶に限り乗り込ませて日本船籍を維持しつつ外国へ対抗していく動きがあり、全日本海運組合は日本人船員を維持することの重要性をPRしていたのですが、事業の継続と外航海運における日本人船員の確保維持とのバランスをとりつつ現在に至っています。

定岡委員：

内航、漁業において日本人船員のなり手が減っていく過程で外国人比率が増えることはあるのでしょうか。

三浦海事振興部次長：

現在は、内航海運についてカボタージュ規制があり、外国人を船員として乗り組ませて運航することはできません。漁業については、外国人について部員にのみ特定技能実習生として従事することが認められています。

横見部会長：

日本商船隊は、日本籍船だけなのか、あるいは便宜置籍船も含むのかどちらでしょうか。

三浦海事振興部長：

日本の会社が支配する便宜置籍船も含まれます。

横見部会長：

便宜置籍船は今後減らしていく流れはあるのでしょうか。

浦委員：

今後も増えていくと思います。トン数標準税制を導入した際に日本船舶を一定数確保するとともに日本人船員も増やしていくという取り組みを行ったのですが、日本船舶数は着実に増えた一方で、日本人船員がなかなか増えていかないといった状況です。

横見部会長：

ありがとうございます。

他に何かございますでしょうか。

横見部会長：

それでは次に、事務局より報告事項がありますので、よろしくお願ひします。

- ・今年度の近畿運輸局における最低賃金の諮問について
〔 岩佐海事振興部長（説明） 〕

横見部会長：

ありがとうございました。今の件について、何か質問ございますか。

横見部会長：

それでは続きまして、アンモニア燃料船についての説明をお願いします。

- ・アンモニア燃料船に乗り組む乗組員の教育訓練について
〔 衣川船員労働環境・海技資格課長（説明） 〕

横見部会長：

ありがとうございました。今の件について、何か質問ございますか。

佐藤委員：

教育訓練を受ける場所や費用などは決まっているのでしょうか。

衣川船員労働環境・海技資格課長：

まだ細部までは固まっていません。アンモニア燃料船が増加してくる段階で実施の場所などが定められるようです。現在は1隻の実験船のみが対象で、暫定で作成してものです。おそらくはメーカーで行うのではないのでしょうか。

磯合委員：

一般的にはメーカーの工場で行うことが多いです。LNG燃焼船などは危険物の扱いなど、メーカーの訓練を受講していると聞いています。

浦委員：

タンカーですか。

衣川船員労働環境・海技資格課長：

ハーバータグです。元々LNG燃料タグボートをIHIの原動機を使って動かしています。

横見部会長：

ありがとうございました。

それでは、次に、船員政策や船員労働全般に関わる様々な問題について、ご意見や情報などございましたらご発言をお願いいたします。

では、まず労働者委員のほうから何かございますでしょうか。

坂上委員：

全日本海員組合の第85回定期全国大会が、10月の30日、31日、11月1日の3日間で開催されます。全国大会は、組合の活動を定める最高決定機関でありますので、ご報告いたします。

横見部会長：

ありがとうございました。

それでは、使用者委員の方からいかがでしょうか。

横見部会長：

そのほか、公益委員の方からいかがでしょうか。
よろしいでしょうか。

横見部会長：

そのほか、事務局からいかがでしょうか。

横見部会長：

それでは本日の部会は終了いたします。

次回は9月18日（水）16時00分からとなっておりますので、皆様よろしく願いいたします。

（配付資料）

資料1．令和6年7月分 近畿運輸局管内船員職業紹介実績表

資料2．令和6年7月分 月間有効求人・求職状況（近畿管内）

資料3．令和6年6月分 局別月間有効求人数（商漁船・職部員別）等

資料4．内航輸送実績状況（令和6年6月分まで）

資料5．長距離フェリー輸送実績の推移（令和6年6月まで）

資料6．船員教育機関卒業生の求人・就職状況及びあり方検討会の検討の方向性

資料7．最低賃金関係資料1～4